



差別は、だまっていなくてもなくなる。  
差別をなくしていくための行動を起こさなければなりません!

学校は、人権の視点に立って、全ての教育活動を行っています。「自分も友達も誰もが、気持ちよく明るく過ごすことができるための活動」です。

3年生が総合的な学習の時間に、「いじめや差別の生まれない学級をつくろう」というテーマで学習をしています。その一環として、浮羽町にある社会教育集会所に見学に行きました。この社会教育集会所は、人権教育を推進し、あらゆる差別をなくしていく活動を行っている市の施設です。

見学の中で、こんなお話を聞きました。

「いじめる側は、小さい石ころを投げている感覚でも、されている側はとてつもなく大きい岩に感じていること。」

「いじめに加担していなくても、見ているだけでもいじめをしていることと同じ。」

「いじめをしないだけではなく、いじめをなくす人になってください。」

3年生の子ども達は、しっかりと耳を傾け、力強く頷きながらお話を聞いていました。

いじめは、差別です。人権が脅かされることです。とても残念なことですが、学校生活の中で、友達との関係で悲しい思いをする場面があります。

そんな時、見て見ぬふりをするのではなく、だめなことはだめ!と言える、言えなければ助けを求める、と自分ができる行動を起こす人になってほしい。

何より、自分と同じように友達を大切にできる人になってほしい。

「かてて」ではなく、「一緒に遊ぼう!」と声をかける人になってほしい。

そのために、全職員一丸となって、子どもの人権が守られる取組を行っていきます。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いします。

伊坂幸太郎 著「逆ソクラテス」(2023年集英社)という短編集があります。小学校を舞台として、小学生達が偏見やいじめといった問題に立ち向かっていく話です。

紙幅の関係上、詳細は省きますが、心に残っ

た言葉を紹介します。お子さんと一緒に何か考えていただけたら幸いです。

何事も決めつけて、それを押しつけようとする担任の先生の先入観をひっくり返そうとする小学生の奮闘を描いた表題作「逆ソクラテス」より。

☞「どこにでもいるんだよ。決めつけて偉そうにするやつが・・・そういうやつらに負けない方法があるんだよ。」

「『僕はそうは思わない』」

☞「・・・だから、ちゃんと表明するんだ。僕はそうは思わないっ、って。君の言うことは、他の人に決めることはできないんだから」

☞「敵は、先入観だよ」

缶パンケースをわざと落として授業を妨害する子どもがいても叱らない一見すると頼りない先生が、子ども達に語りかけることとは・・・「非オプティマス」より。

☞「相手によって態度を変えることほど、格好悪いことはない」

☞「人は、ほかの人との関係で生きている、ってことだ。人間関係にとって、重要なことはなんだか分かる？」

「評判だよ。」「評判がみんなを助けてくれる。もしくは、邪魔してくる。あいつはいいやつだな。面白いやつだな。怖いやつだな。この間、あんな悪いことをしたな。そういった評判が大きくなって関係してくる。」「先生にはばれなかったとしても、ほかの同級生は知っている。だれだれさんは、授業中に缶パンケースを落として授業を邪魔していたな。だれそれ君はずるがしこいやつだったな、と覚えている。いい評判とは言えない」

☞「最初に言ったように、先生はみんなに、相手を見て態度を変えるような人になってほしくないんだ。・・・最初の印象とかイメージとかで決めつけていると痛い目に遭う。だから、どんな相手だろうと、親切に、丁寧に接している人が一番いいんだよ。」



朝夕めっきり冷え込んで来ました。くれぐれもご自愛ください。

